

令和元年度 金沢ベーシックカリキュラム実践推進事業 報告書

学校名	研究課題	研究手法
金石中学校	道徳	家庭との連携

1 研究の重点と具体的な取組

(1) 重点1 家庭との連携

①道徳科の授業公開、道徳アンケートによる意識調査結果の周知、授業の内容に応じた各家庭からのメッセージ等、学校における道徳教育への理解と協力が得られるよう、家庭との連携の在り方を研究した。

(2) 重点2 地域との連携

①地域の方を道徳科の授業の外部講師として招聘し、連携の在り方を研究した。
②研究を進めるにあたり、昨年度に引き続き、北陸大学 東風 安生 氏をスーパーバイザーとして招聘し、定期的に研究の質の向上を図った。

2 取組の検証

(1) 生徒、保護者、教員へのアンケート

意識調査アンケートや内容項目に基づいたアンケートを定期的を実施し、生徒の内面的な変容の把握及び経過観察を行い、各重点の取組について検証することができた。

(2) 外部講師による指導、助言

研究授業、整理会、校内研修会等におけるスーパーバイザーからの指導・助言を通して、研究について定期的に見直すことができた。また、本校独自の指針である『道徳の研究必携』を更新しながら、共通理解・共通実践を図ることができた。

3 成果と課題

(1) 成果

アンケート結果を、生徒の内面的な変容の把握だけでなく、授業の導入に用いることで、より身近な問題として捉えることができ、問題意識をもたせることに効果的であった。

地域の方をゲストティーチャーとして招聘するだけでなく、各家庭からのメッセージを紹介することで、道徳的価値を高めることに効果的であった。

北陸大学の東風氏をスーパーバイザーとして招聘し、定期的に指導・助言を受けたことで、組織的に共通理解・共通実践を図りながら、授業改善につなげることができた。

(2) 課題

道徳的価値を深めるためにゲストティーチャーを授業の終末に活用することは効果的であったが、展開の最後に活用して、さらに議論を促す機会とするなど、より効果的な活用場面を模索することが課題である。

家庭・地域との連携で得られた情報を効果的に用いることで、身近な問題として捉えさせ、生徒が考えたい、学びたいと感じ、生徒から主題が出てくるような問題解決型の導入の工夫が課題である。